

## 港湾における中長期政策検討のための懇談会（第4回）議事概要

日時：平成30年2月20日（火）14:00～16:00

場所：中央合同庁舎3号館 11階特別会議室

○キヤノングローバル戦略研究所宮家研究主幹より、「将来の国際情勢と港湾政策の課題」について下記の点を中心に講演頂いた。

- ・近年の国際情勢の変化
- ・世界史に見るパワーシフトの変遷と力の大真空について
- ・他国の海洋政策が我が国周辺の国際海上秩序にもたらす懸念

主なご意見：

- ・島国の国益を最大化するには海洋戦略が重要である。資源に乏しい国が貿易で付加価値をつけるためにはシーレーンを確保することが重要であり、これまで日本は他の島国と同盟を組むことにより経済的に成長してきた歴史がある。そのためにも港湾が重要。
- ・経済成長を続けてきた国は内需拡大や公営企業改革などを行ってきた。このようなことをしなくてもAIや情報通信技術を活用して海洋進出に成功することは不可能ではないかもしれないが、相当の経済力がないと難しい。
- ・商業活動に関するネットワークは個人的なレベルのものだが、港湾をはじめ世界的なネットワークを構築して支配するとすれば、国家レベルの意志が伴うものと考えられる。
- ・かつてイタリアのベネチア共和国がイスタンブールと交易していた時代のように、海外とのネットワークを構築する上では、「点（＝港）」を押さえようとする戦略は効果的。
- ・国家間の、「経済的な相互依存の高まり」と「安全保障上の安定性」との因果関係には様々な意見があるが、どちらも重要であり相互に影響し合う。

以上